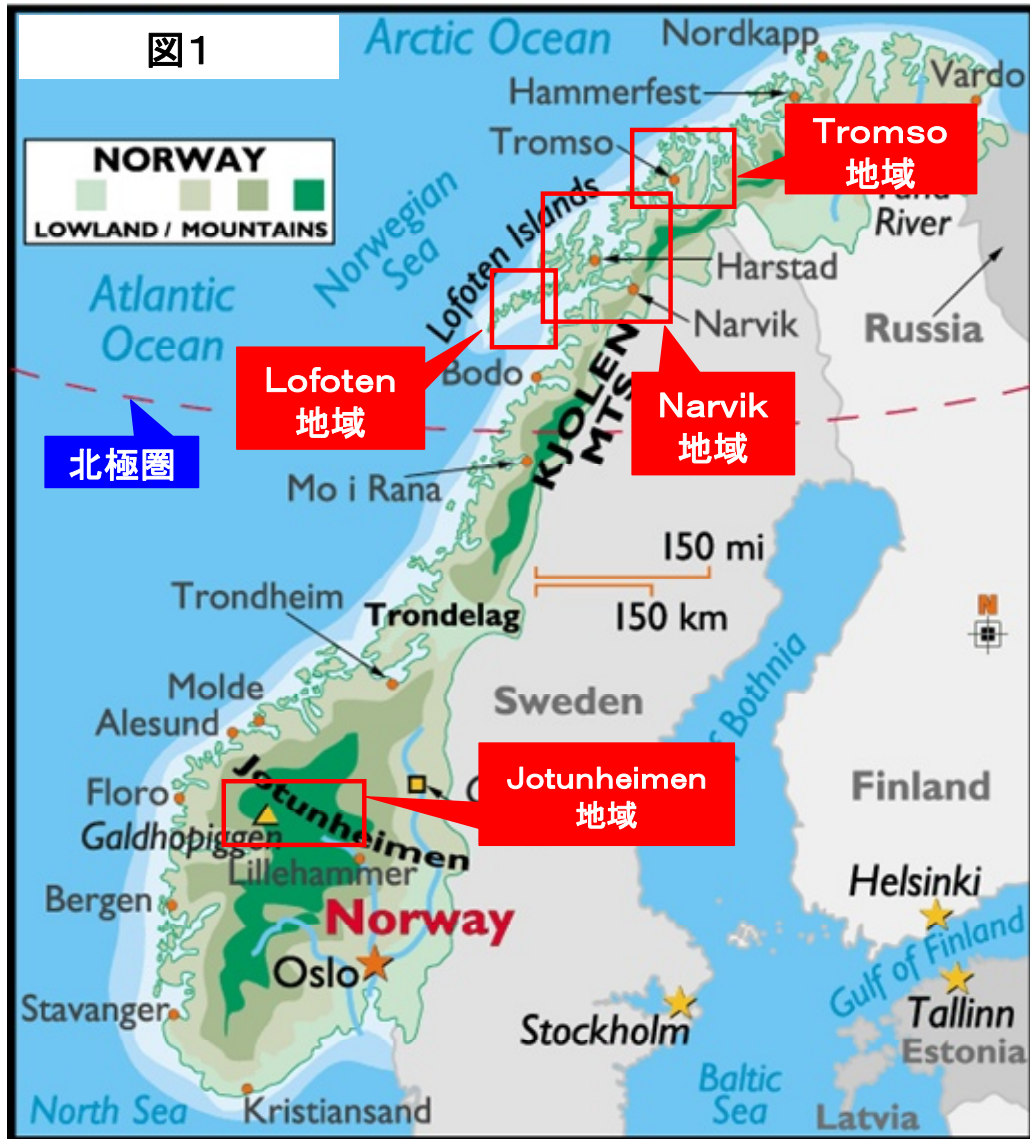


# ノルウェーの山スキー(その4)

岩 毅

今回は、前々回(08年9月号、#316号、「ノルウェーの山スキー(その2)」)、前回(09年1月号、#318号、「ノルウェーの山スキー(その3)」)に引き続き、ノルウェー北部北極圏の代表的山スキーエリアである、Narvik 地域(図1、図2)を紹介します。



## (B) Narvik地域の山スキー#3

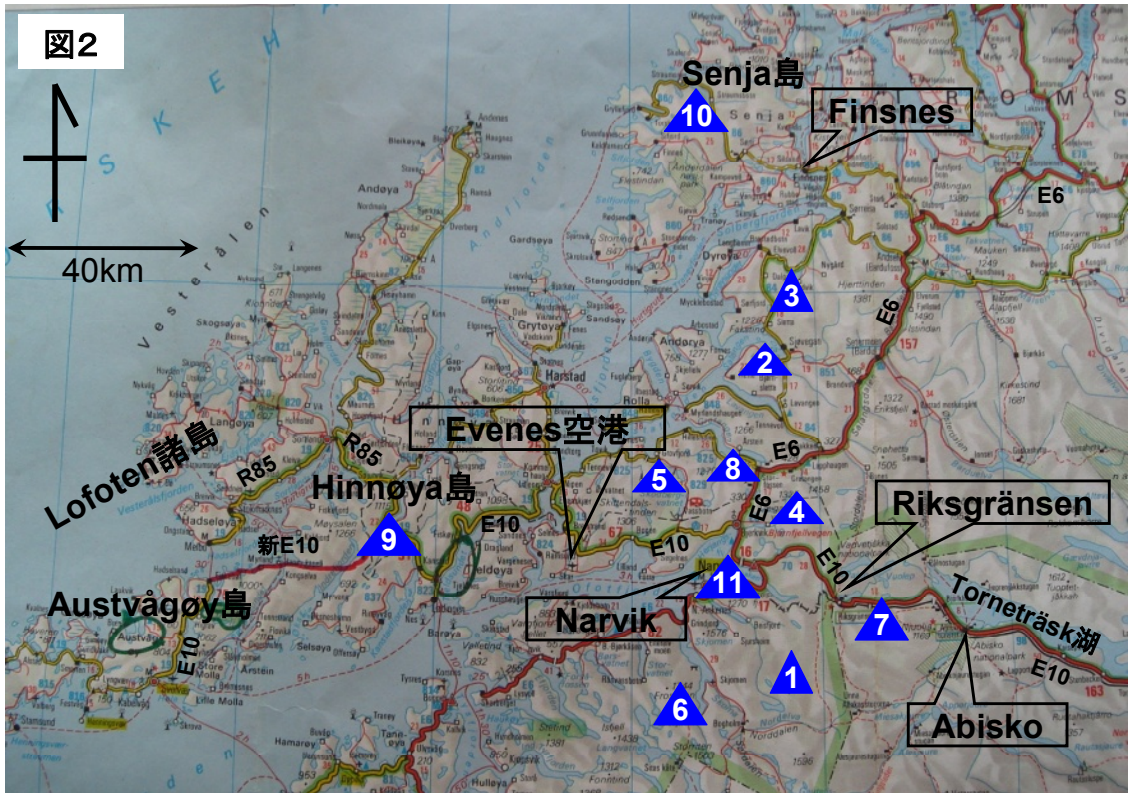
<09. 4. 29-5. 10 1歳の娘、はるかと行くノルウェー北極圏の山スキー>

今回は、今年5月連休の山スキーについてご報告します。記録欄の、-はクルマ(自家用車/レンタカー/タクシー)、\*\*は空路、++は鉄道、=はバス、」はゴンドラ/リフト、>>はシール登行、~~は滑降、...は歩行を示します。同行は妻、佳恵と娘、はるか。○○km は距離を、●●m は海拔高度を示します。図2では、このNarvik地域で、私が「いままで」と「今回」、山スキーした山を示します。

## 2009. 4. 29(水): 図2

記録: 自宅 750-830 成田空港近隣貸駐車場 845=900 成田空港第1ターミナル南ウイング/晴 1140\*\*  
1550 Copenhagen/晴 1820\*\*1930 Oslo 2135\*\*2315 Evenes 2330=74km=2430 Narvik バスターミナル  
2445-TAXI 0.5km-2450 友人宅/晴

図2



地図#	山名	標高/到達点 m	滑降高度 m	登山日 ◎: 登頂	ラネージュ報告
1	Storsteinsfjellet	1893/1800	1580	05.4.30	316号/08年9月
	Storsteinsfjellet/北峰	1717/1717	1505	06.5.5◎	
2	Rundkollen	1019/1019	825	05.5.7◎	318号/09年1月 今号
	Skavneskollen/Gamvikskardet	1196/782	800	06.5.1	
3	Snøfjellet	1119/1119	890	06.4.30◎	318号/09年1月 今号
		1119/610	380	09.5.5	
4	Kopparfjellet	911/911	515	06.5.2◎	318号/09年1月
5	Novafjellet	1281/750	630	05.5.6	
6	Frostisen/Vesterskardet	1724/1012	710	06.5.3	今号
7	Kärketjärre	1388/1200	710	09.5.2	
	Kärkevagge	800/800	280	09.5.7	
8	Snaufjellet	692/692	390	09.5.3◎	
9	Middagsfjellet	805/805	775	09.5.4◎	今号
10	Sanfjellet/Tredjefjellet	898/898	600	09.5.6◎	
11	Narvikfjellet/Tredjetoppen	1272/1272	1150	09.5.8◎	

今回は、はるかも一緒のため初めて成田空港そばの安価駐車場を利用する。12日間駐車して¥4000、往復電車代、空港と自宅とのスキー宅急便も考慮すると安いかな。駐車場と空港間は無料送迎付きである。

いつものように、スカンジナビア航空を使うが、今回は、私の分はマイレージ利用のためタダ。娘、はるかも通常は大人×10%が必要だが、私がタダなのではるかもタダ。かなりお得感のある旅となった。

はるかは、既に沖縄や北海道に行っているの、飛行機は経験済みだが、10時間に及ぶ長いフライトはどうなるか、体調は？心配しきりだったが、まったくの杞憂だった。元気で元気で大人が参ってしまった。はるかは、通路を後部給仕室からビジネスクラスまで行き、愛想を振りまき、フライトアテンダントのお姉さまやビジネスマンのおじさまから、しっかり、お菓子やら何やらをせしめて帰

ってくる。アテンダントのお姉さまからは、「物怖じしない元気なお子様ですね」、と、もう恥かしいことこの上なし。まあ、もう十分生き抜く力は備わっているのかもしれない、が。

逆に参ってしまったのは、私のほうだった。いつものフライトスケジュールだったが、寄る年波には勝てず、2回乗り継ぎ、時差7時間、ドアトドアで連続 24 時間の旅はこたえた。3日間ほど時差ボケが抜けなかった。今回でスカンジナビア航空のマイレージポイントもほぼゼロに戻るの、次回は航空会社の変更も含めたフライトスケジュールの見直しが必要のようだ。

## 2009. 4. 30(木)

**記録:** Narvik 友人宅/晴 900・920 レンカー-社オフィス 930-友人宅 1000-(ロケハン)-1700 友人宅/晴

今日から10日間友人宅の1室2間を借りる。もちろんタダで。まあ、その友人もこの10月はじめから5週間ばかり日本に来るので、弊方の狭いお部屋をお使い頂くのです。

今日は、いつものように、このエリアの雪の状態を確認し、これから10日間の山スキールートを見極めるため、終日ロケハンドライブをする。少々、時差ボケでキツイが、まあ、休みつつ運転。

今年は比較的雪が多いと聞いていたがそうでもない。2006年よりは多いが、2005年よりは少ないようだ。従って、当初考えていたルートのいくつかは断念しなければならないようだ。とくに今回ははるかがいるため、シートラーゲンが必要なルートや、山小屋を使うルート、また急なルートは避けなければならない、雪が少ないと、そのようなルートしか残らず、ちょっと、ルート選択が苦しくなりそうだ。

夜、妻と相談して、はるか連れていくのははるかの体調も考慮して1日置きとし、ルートも、はるかで行くときは、クルマから直接スキーが履けて、比較的緩やかなルートにすることにした。

## 2009. 5. 1(金): 図2

**記録:** Narvik 友人宅/雨 1000-96km-Tjeldsundet 海峡-20km-Kongsvik-46km-Gullesfjordbotn-28km - Raftsundet 海峡-20km-Lofoten 諸島 Austvågøy 島/曇 1300-210km-1600 友人宅/晴

今日も時差ボケが抜けず結局山スキーは諦め、ロケハンがてら、かつて行った Lofoten 諸島に行く。昨年、新しい道路が開通し、Lofoten 諸島までフェリーに乗らずに行けるようになった。

小雨降る中、Narvik 友人宅を朝10時に出発。Rombaken フィヨルドを渡る大吊橋を渡り、ルートE10に合流、これを西に走り、空港のある Evenes を通過して一路 Lofoten 諸島へ。Tjeldsundet 海峡を渡る吊橋を渡り Lofoten 諸島の最東端の島、Hinnøya 島へ。雨が止んだので、Kongsvik という漁村の船付き場で休憩、手製サンドイッチランチにした。古いスズキのバイクに乗った初老のノルウェー人と話す。今は引退した船乗りとのこと。現役時代は横浜や神戸によく行ったとのこと。海は澄んでいてきれいだった。

Gullesfjordbotn から新しい道路に入る。ルートE10は新しい道路の番号になり、かつてのE10はルート85に格下げ。ちなみにこのE番号はヨーロッパにおける国際的な道路網に付けられた番号です(Wikipedia「欧州自動車道路」より)。

新しい道路は、氷河の脇をトンネルでぐりぬけ、フィヨルドを橋で一跨ぎし、氷河の脇をトンネルでぐりぬけ、深い海と鋭い山を縫うように行く。新しい道は本当に絶景続き。ドライブだけでも十分楽しめる。ノルウェー沿岸急行船(Hurtigruten)が通過する Raftsundet 海峡を吊橋で渡れば、Lofoten 諸島の中心、Austvågøy 島に渡る。中心の町、Svolvaer まで行こうと思ったが、時差ボケで眠気がきつくなり、途中の景色の良い駐車場で寝てしまい断念。

残雪は、Hinnøya 島はかなり多い。Narvik より多く、いくつか興味深い山スキールートが見つかったが、いずれも急斜面有り、はるか連れではちょっと厳しそう。Austvågøy 島に渡ると雪も急激に減り、もう普通の山登りの世界だった。

## 2009. 5. 2(土): 図2、#7: Kärketjärre 山

**記録:** Narvik 友人宅/晴 820-51km-930 Låktatjåkka/490m/晴 1020>>1150 Luoktajohka/790m 1220 >>1350 Kärketjärre 山の肩/1200m/晴 1450~~1530 Låktatjåkka 1610-10km-1620 Riksgränsen

今日ははるかを連れて Riksgränsen-Abisko エリアへ。天候にも恵まれ楽しい山スキーになった。この Riksgränsen-Abisko は、国境を越えスウェーデン側にある著名なリゾート。スキー場が2ヶ所と Torneträsk 湖(大きさ 330km<sup>2</sup>、凡そ琵琶湖の半分)があり、夏も冬も多くの人で賑わう。冬はオーロラでも有名で、真冬、多くの日本人が訪れる。スキー場はまだ積雪が 1m 以上あり、2ヶ所ともまだオープンしている。

Narvik 友人宅を朝出発、昨日同様 Rombaken フィヨルドを渡る大吊橋を渡り、ルートE10に合流、今日はこれを昨日とは反対の東に走る。峠に近づくと一面の銀世界。峠には国境がある。国境には日本の高速の本線料金所的な税関があるが申告不要の場合は徐行のみで止らず通過する。税関を過ぎ数分で Riksgränsen 到着。あたりは、長期滞在用コテージや瀟洒なホテルが並ぶリゾート地帯。ちょっと山スキーには場違いな雰囲気だ。ただ Riksgränsen から数キロ行けば、見渡す限りの白い高原地帯に1本の国道が延びる大自然まったただ中に戻る。この国道、ルートE10は鉄鉱山の町 Kiruna を通り、ボスニア湾岸の港町 Luleå まで行く。この国道の北側が Lapland である。

Riksgränsen からルートE10で東へ 10km ほどの Låktatjåkka が今日の登山口。クルマを登山口の退避スペースに置く。今日は土曜日であり、また、ここは Låktatjåkkastugan という食事付きの山小屋を中心とする山スキーエリアの登山口のひとつなので、すでにかなりのクルマが駐車している。スウェーデン人女性2人組に、「あらベビーも一緒なのね」と、ちょっと話しかけられた。彼女らは今晚 Låktatjåkkastugan に泊まり、明日、一山登ってから下山とのこと。ちなみに、Låktatjåkkastugan までは 6km、標高差 730m ほどあり、はるかを連れていくには少々つらいので、私たちは適当なところで遊んで戻る。

ルートはいたってわかりやすい。Låktatjåkka から Luoktajohka の谷に入り Låktatjåkkastugan まで概ね 100m おきに目印の杭が立っていてそれに沿って行けば良い。もちろんシュプールもたくさんある。ただ、少し興醒めなのはスノーモービルが多いこと。あのエンジン音がうるさくてかなわない。私たちは Luoktajohka の谷で休んだあと、スノーモービルを避けて谷の左岸の壁を登り、Kärketjärre 山の肩まで行った。谷の中は、景色がいまいちだったが、Kärketjärre 山の肩まで来れば、北方にどこまでも広がる見渡すかぎりの白い台地 Lapland が一望のもと。また、スノーモービルの騒音も聞こえない。はるかを背中から下ろす、こわごわではあるが、雪の上を歩いた。

下りは妻と交互にはるかを担いで滑る。雪質は重たい。背中ではるかがキャツキャツと騒いでいるがあまりすいすいとは行かない雪だった(裏表紙写真)。

帰り、Riksgränsen で買い物。ノルウェーよりスウェーデンのほうが物価が安い。また、円との為替差もスウェーデンのほうが良い。このため、Riksgränsen のスーパーでまとめ買い。これはノルウェー人の友人から教わった。

## 2009. 5. 3(日): 図2、#8: Snaufjellet 山

記録: Narvik 友人宅/曇 1130-41km-øse-1.5km-1230 Høgebakken/300m/曇 1300>>1430 Snaufjellet 山/692m/雪 1440~1500 Høgebakken 1510-43km-1600 友人宅/雨

今日は朝から雨。しばらく様子見をしていたが雨が止んだので、北のほうに行ってみる。ルートE6を北へ1時間、Narvik の北隣の町 Gratangen に行く。このあたりは、ルートE6が高原地帯を走るため、道路脇から山スキーが出来る。リフト1本の小さなスキー場のある Høgebakken に来る。スキー場にはまだ雪はあるがもうクローズしていた。

スキー場の脇の森の中を登る。今日はスノーモービルの音のしない静かな山スキーである。いまにも雨が降ってきそうな天気の中、山頂を目指す。1時間ちょっとで山頂に着く。眼下にフィヨルドを望む高度感あふれる景色。標高の割には絶景だった。小雪が舞い始めたので慌てて下山。

まあ、天気のわりにはいい山スキーが出来た。

## 2009. 5. 4(月): 図2、図3、#9: Middagsfjellet 山

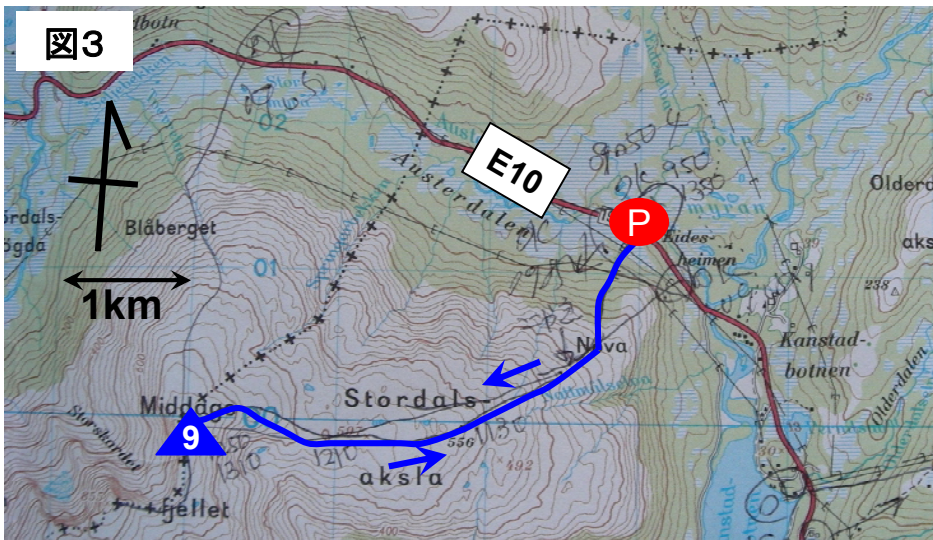
記録: Narvik 友人宅/曇 600-162km-800 雨 Gullesfjordbotn/曇 920-5km-930 Austerdalen/30m/曇

今日のはるかには休養、で、妻もはるかと一緒に、ということで、私の単独行となった。初めての単独ノルウェー山スキー。事故は絶対出来ない、ちょっと緊張感高まる。行先は、3日前(5月1日)に目をつけた、Hinnøya 島、Gullesfjordbotn の Middagsfjellet 山。山の北も南もすぐ下まで深いフィヨルドが迫る。山頂からは絶景が期待できる。にもかかわらず、地図では山頂まで一部急だがすっきりした斜面が続いている。ダイナミックなダウンヒルが期待できそう。また、3日前(5月1日)のチェックではこの山の麓は非常に残雪が多く、標高ゼロでも1m近い残雪がある。冬季はかなりの雪が降るエリアと推測できる。また、シュプールもいくつも残っている。これはちょっと面白いかな、と。また、標高がそれほど高くないので初単独行には適しているな、と。

朝6時曇空のもと、友人宅を出発。途中、3日前(5月1日)に古いスズキのバイクに乗った初老のノルウェー人と話した場所では晴れ間が見えた。しかし、8時、現地に着くと雨。やはり雲のとれにくい山のような。しばらく様子見。1時間ほどクルマの中で待つと雨が止んだが、まだ、山は深い雲の中。時間的にこれ以上待てないので、行けるところまで行こうと思い出発する。やはり、いつも一緒に行く妻がいないのは、ちょっと心細さを感じる。

標高 30m とは思えないほとんど無立木の斜面を、尾根に向かいシュプールの跡を辿る。シュプールの跡は7～8本。この土日のもののような。標高 400m 付近ではかなりの急登になる。眼下にフィヨルドを望む高度感いっぱいの登りである。雪はほぼザラメのため、シールがしっかり雪面を捉え、急登とはいえ、安定感がある。登りきると Stordalsaksla の台地である。標高差 500m を1時間40分、好調好調、ただ、小雪が舞い出した。ここから滑っても標高差 500m 超のダウンヒル、悪くはない。妻もいないので、ここで止めようかとも思ったが、台地上の大雪原となり、小雪は降るが視界は良好なので、もうちょっとだけ行こうと思直す。

小雪ちらつく中、前方遠くに山頂が見えはじめる。まだまだ遠い。時間には余裕があるので、この広い台地の端、山頂に登り上げる尾根の末端までは行こうと決める。正午すぎ、その尾根の末端に着く。ここからは、また急登である。雪質も変わる。やや硬め雪面の上に、昨日から降った雪がうっすらと積もる。幸いなことに雪も止み、青空が見えてくる。周囲はどの方向も深いフィヨルド。まさに絶景である。こうなれば行くしかない。



大斜面をガンガン登る。ついに山頂である。標高800mちょっとだが、ほぼ海拔ゼロからの登り。そして周囲をフィヨルドに囲まれた独立峰。天気も快晴になった。北に大西洋、南にこの Lofoten 諸島とノルウェー本土に挟まれた Vestfjorden。これら青い海と、純白の雪を抱いた鋭い峰々、まさに絶景である。やはり、ノルウェー北極圏の山スキーは、この海と鋭い峰とフィヨルドの織り成す独特の景観、そして、海に飛び込むようなダウンヒルが最高である。

山頂からクルマまで標高差800m、まさに海に飛び込むような大ダウンヒルとなった。雪質は、

頂上付近は紛雪パウダー、中間部は重くなるも、下部はザラメ雪。なかなか楽しい滑りであった。想像以上のいい山スキーが出来た。このエリアにはこのような山がまだいくつもありそうだ。まあ、願わくば、もう少し雪の多い3月～4月のほうがいいのかもしれないが、5月に比べアイスバーンが多くなるのと天候が悪いので、どちらがいいかと云うと微妙かもしれない。

## 2009. 5. 5(火): 図2、#3: Snøfjellet 山

**記録:** Narvik 友人宅/晴 900-89km-Setermoen/晴 1130-28km-Salangen-16km-1230 Grønli/231m/晴 1300>>1430 Snøfjellet 山の中腹 Aksla/610m/晴 1450～～1510 Grønli /晴 1530-63km- Finnsnes /晴-54km-Senja 島 Skaland-54km-Finnsnes 1930-45km- Bardufoss -116km-友人宅/晴

今日のはるか連れて山スキー。朝から快晴。行く先に迷うもまた、Riksgränsen-Abisko エリアに行くのはいまいちなので、ルート E6 を北へ行くことにする。Narvik から北へ 50km ほどのところに山スキーの盛んな Spanstinden 山/1457m、Melkefjelle 山/1383m があるが、ともにやや急なため通り過ぎて更に北、スキー場のある Setermoen に行く。スキー場から奥に地図からは緩やかな台地となっていて、はるか連れていくのに適当かと思われたが、現地についてみると、残念ながらスキー場はクローズしており残念ながら断念。そこで、3年前に行った Grønli から Snøfjellet 山へのルートに行ってみることにする(09年1月号、#318号、「ノルウェーの山スキー(その3)」参照)。

正午に3年ぶりに Grønli の牧場に着いた。3年前、人懐こく寄ってきた黒の牧羊犬はだいぶ大きくなっていて、でも、相変わらず人懐こい。牧場主のご主人にクルマを置かせて下さいとお願いし、快くご了解頂く。そして、何と、山スキー用のそりを貸してもらおう。そのそりはフード・カバー付きで、荷台には荷物だけでなく子供も乗れるもの。また、ジュラルミン製で軽く、前頭にジュラルミンの引き手引き棒があり、これを腰に付けられるようになっている。ひととおり使い方を教えてもらう。

早速、はるか乗せて、引き手引き棒を私の腰に装着し安全環を確認して出発。はるかはしばらく騒いでいたが、いつものように、じき、寝てしまう。快晴のためフード付きの荷台はポカポカして暖かい。緩斜面なので、腰への負担もほとんど無い。先に行った妻と犬を追うように進む。夫婦+娘+犬の山スキーハイクである。標高差 400m ほど登り、Snøfjellet の中腹 Aksla に着く。森林限界の最後の木のところにそりをがっちり固定する。ここからはしばらく急斜面なので、そりは大変。急斜面の途中で妻がいたので合図する。はるかを起こしたところに妻が到着。私は犬を追ってもう少し登る。急斜面の上の台地に上がり山頂が見えたところで終わりにする。犬を呼んでダウンヒルに入る。私が滑ると、犬は懸命に追いかけてくる。そりのところで集合。はるかが犬とじゃれている。下りはあっという間。はるかも下りはフードごしにキャッキヤと喜んでる声が出た!? そりをお返ししている間に少し疲れたのか犬は部屋に入って行ってしまった。

このあと、下見も兼ねて、港町 Finnsnes と Senja 島に行く。Senja 島は大西洋岸の西海岸が絶景だった。また、いくつか、山スキーに面白そうなルートもあった。帰りはルートE6を超特急で戻る。途中、Istindan 山/1489m の屹立した双峰が印象的だった。

## 2009. 5. 6(水): 図2、図4、#10: Sanfjellet 山

**記録:** Narvik 友人宅/晴 730-161km-Finnsnes/晴 930-37km-1000 Senja 島 Kaperdalen/300m/晴 1030>>尾根/750m 1230>>1315 Sanfjellet 山(Tredjefjellet ピーク)/898m/晴 1400～～1430 Kaperdalen 1500-Senja 島西海岸周遊/157km- Finnsnes /晴 1900-161km-2100 友人宅/晴

今日のはるか休養日。2回目の単独行である。昨日下午見した Senja 島に行く。地図で目を付けておいた西海岸(大西洋岸)の Sanfjellet 山を狙う。現地に着くと狙ったとおり、道路脇にはまだ残雪が1m以上。道路脇の雪壁を登り、スキー板を付ける。快晴のもと純白の大斜面。標高は高くないが申し分なし。狙い通りの山だった。いくつかあるシュプールの中で自分のイメージに近い奴に沿って登り始める。シュプールは途中左手方向に Sanfjellet 山北ピーク/765m に向かう奴が別れるが、惑わされることなく右手奥 Tredjefjellet ピークに向かって進む。雪面はだんだん硬くなり、今回のノルウェー行で初めてスキーアイゼンを付ける。山頂部は広い台地になっていてその南端が最高峰 Tredjefjellet ピークである。ピークには標識塔と避難小屋があった。避難小屋の鍵は私の持っているノ

ルウェー山岳会の鍵では開かなかったのでプライベートなものようだ。

この山は眼下が大西洋そのもの。まさに、青い海、青い空、白い雪。目前に大海原を望むフィヨルドの島の山スキーも格別である。氷河は無いが十分である。周囲を海と奇岩絶峰に囲まれ感動的だった。

ダウンヒルは登りのルートとは変えて、ダイレクトにクルマを止めている Kaperdalen 谷に下った。雪質はやや重たいが豪快なダウンヒルが楽しめた。

下山後は Senja 島の西海岸をぐるっとドライブ、奇岩絶峰続きでまったく飽きさせない。ここもドライブだけでも十分楽しめる。この Senja 島は今日登った山のほかにも最高峰の Stormoa 山/975m など山スキー向きの山がほかにもある。また来たい。



図4

## 2009. 5. 7(木): 図2、#7: Kärkevagge 谷

記録: Narvik 友人宅/晴 800-47km-900 Vassijaure 駅/520m/晴 1010>>1310 Kärkevagge 谷/800m/晴 1340~1420 Vassijaure 駅 1440-20km-1525 Abisko östra 駅/晴 1530++1710 Narvik 駅・1750 友人宅/晴 (妻、はるか: Abisko östra 駅 1530-買い物/67km-1740 友人宅/晴)

今日も晴れ。今日のはるかを連れて再度 Riksgränsen-Abisko エリアへ。5月2日に入った谷より1本西側の谷に行ってみる。登山口は Ofofbanen(オーフォート鉄道)の Vassijaure 駅。この鉄道は前にも書きましたが、鉄鉱石の積出移送を目的として 1903 年に開通、鉄鉱山 Kiruna と不凍港 Narvik 間を結ぶ鉄道です。現在は多数の鉄鉱石運搬列車と1日1往復の Stockholm-Narvik 直通寝台列車、1日2往復の Luleå-Kiruna-Narvik ローカル列車が走っています。

この駅は古い駅ですが立派な駅舎です。ただほとんどプライベートのようで駅としての部屋はホーム側の一室だけ。きれいなトイレがあり暖房は十分です。30分に1本は鉄鉱石運搬列車が走る。家の近くを京成電車が走っているため、はるかは、鉄道にはいたく興味があるようで、鉄鉱石運搬列車が通ると身を乗り出して見ようとします。「鉄子」にしちゃおうかな、と思ってます。

さて、準備を終えて出発。駅の回りはまだ雪が沢山。駅からシール登行です。今日は木曜日なので登山者もほとんどいません。うるさいスノーモービルもいません。たくさんのシュプールを追って谷をだらだらと行きます。3時間ほど登って、前方に氷河の末端が見えたところで終わりにしました。氷河を背にして北側を望むと茫洋とした大雪原が望めます。Lapland です。

氷河を抱いた顕著なピークが北西方向にあり、なかなか雲がとれない。地図によるとノルウェー領内にある Bassetčohkka/1419m のようだ。ちょっと山スキー欲! ?をそそられる。Narvik の山スキーの本によるとルート E10 から5時間ほどで登れそうだ。次回トライしてみたい。

しばらくそうやってポおっとしてしていると、横ではるかが岩の上で遊んでいる。ちょこちょこと歩いている。早く山スキーが出来るようになるといいな。かなり気が早いかな? 下山はあっという間。

下山したのち、Abisko に行ってみる。Torneträsk 湖は琵琶湖の半分はあるだけあってさすがに大きい。しかもまだ凍っていて真ん中付近に御渡りができている。湖の対岸にも山スキーが出来そうな山が望めるが対岸には道路が無い、残念。Abisko の町はホテルが数軒と大きなスキー場。

Riksgränsen ほど賑やかではないようだ。スキー場は雪がたっぷりあり、まだオープン中だった。Abisko östra 駅に行くと、丁度、Narvik 行の列車が来るころだった。妻がいいよ、というので、私だけ列車に乗ることにした。

ここから、Narvik の車窓は世界的にも有名。これで3回目だが、雪のある5月に快晴は今日が初めて。重厚な電気機関車にごつい客車が3両。乗客はそれなりにいる。ほとんどの客はスキーやスノボーを持っている。椅子は進行方向向きリクライニング。写真をとるため景色の良い北側の座席に座る。きっぷは車内検札で購入。Abisko- östra 駅から Narvik 駅まで 76km で 118SEK(スウェーデンクローナ)=1526 円。旭川⇒名寄が 76km で 1600 円だからほぼ同環境の JR 北海道並というところ。さて、列車は汽笛を鳴らしながらゆっくりと進んでいく。Vassijaure 駅は乗下車客がいない模様で止まらない。ほとんどの乗客は Riksgränsen で降りていった。やはりリゾート客のようだった。ノルウェー側まで行くのは10数人程度。車窓はこれからが見もの。国境を越え、トンネルを抜けると、列車はきしみ音を出しながら大きくカーブを切りながら勾配を下りはじめる。そして、海、フィヨルド、絶景が車窓に展開する。シャッターチャンスだらけである。この景色はルート E10 からはまったく望めない。この鉄道からしか望めない絶景である。フィヨルドの壁を切るように下っていく列車。100年前の難工事が偲ばれる。デジカメのシャッターを切りまくっているうちに Narvik 駅に到着した。76km100 分の旅だった。

クルマは早かった。すでに、かえとはるか Riksgränsen のスーパーでの買い物も終え、友人宅に着いていた。

## 2009. 5. 8(金): 図2、図5、#11: Narvikfjellet 山

**記録:** Narvik 友人宅/晴 1000-2km-1010 Narvik スキー場ゴンドラ駅/120m/晴 1100J1120  
Narvik スキー場最上部/Fagernesfjellet/1000m 1130>>1240 Narvikfjellet 山(Tredjetoppen ピーク)  
/1272m/晴 1300~~1400 Narvik スキー場ゴンドラ駅 1410-2km-1420 Narvik 友人宅/晴

昨夜は雨だったがその雨も朝7時には上がり 8 時すぎには晴れてきた。雨ならばゆっくり帰り支度をしようと思ったが、こうなると、足がうずいて仕方がない。明日、帰途に着くので、妻はいろいろ買い物もしたいようで、結局、今日は私一人で行くことにした。とはいえ、私も早めに戻って荷造りをしないとイケないので、この Narvik には何度も来ているのに、一度も行ってなかった目前のスキー場および目前の山、Narvikfjellet スキー場(Narvik スキー場とも云う)と Narvikfjellet 山(Tredjetoppen ピーク)に行くことにした。ここなら14時すぎには戻ってこれそうなので。

ノルウェーのスキー場のリフトやゴンドラの営業時間は、地域、曜日、月によって、まったくまちまちなので要注意。夕方しか動かなかったりすることもある。この Narvikfjellet スキー場の今日のリフトとゴンドラの営業時間は、HP によると午前 11 時運行開始とのこと。でも気になるので、ちょっと早めに行くもゴンドラの入口にはやはり11時開始のメモ紙が貼られていた。何人かの係員がスタート準備をしているので動くみたいである。市内のインフォメーションなどに行って時間をつぶし、丁度11時、今日最初の客としてゴンドラに乗る。ゴンドラを降りると標高 750m。展望レストランである。ここも11時から営業開始。このスキー場は、雪がなくなるとハイキングコースになる。雪は、この標高 750m の展望台から上はまだたっぷりある、1m 以上あるかもしれない、が、ここから下は、スキー場一番下のゴンドラ駅までかろうじて滑れる状態(に整備されている)。

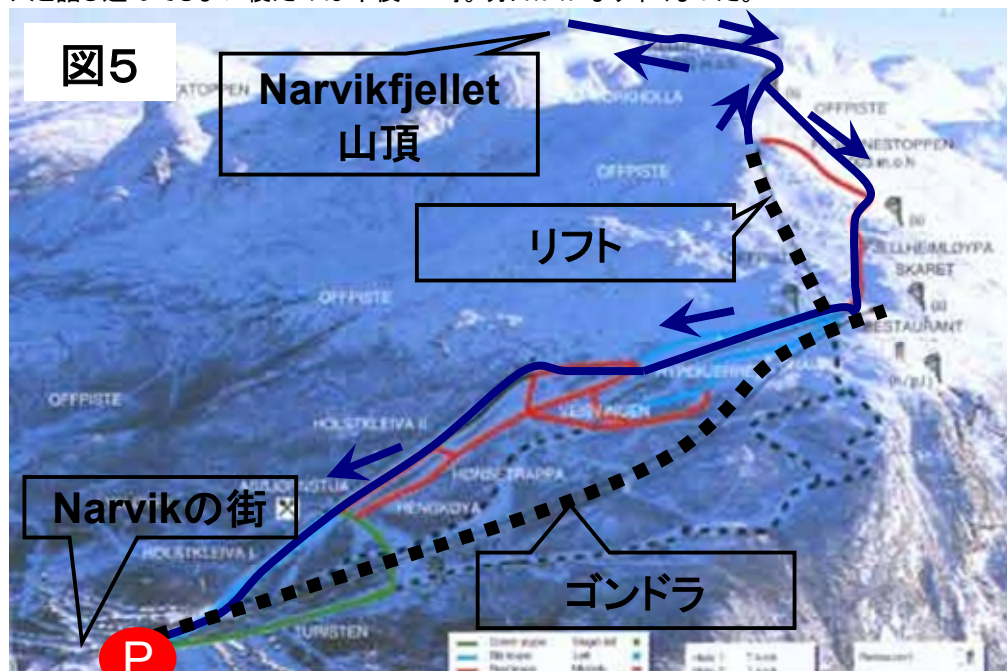
この展望台から上は、2人用リフトでスキー場最上部標高 1000m まで上がる。ノルウェーは人件費が高いのでセルフが徹底していて、このリフトは無人運転状態。チケットはゴンドラ1本、リフト 1 本分しか買わなかったが、リフトは何回でも乗れそうだった。ちなみに、ザックがひっかかり、危なくリフトから転げそうになったが、だーれも視てる人はいない、ちょっとヒヤッとした。リフトから降りると高度感あふれる銀白の世界。厳冬期ならば、まわりは、そこらじゅうパウダーだらけのような斜面。なんやら雪崩注意の看板が沢山たっていたが、そこも、シュプールだらけ。

この斜面はちょっと八方に似てるかも。八方と違うのは、眼下は海、ということ。真冬に来て、パウダー滑りながらオーロラ見るというのも結構面白そうだ。

さて、ここからシールとスキーアイゼンを付けて登る。雪面は硬いが天気もよく快調。途中狭い尾根を行くが標高差 270m、1時間ちょっとで山頂に着く。ここは登りはじめから山頂まで絶景つづき、

遠く Lofoten 諸島まで望める(表紙写真)。町にこんなに近いのにすばらしい山スキールートである。下りは、雪質はいまいちだが、標高差 1150m の大ダウンヒルだった。もちろん、標高 750m から下はクローズ寸前のスキー場、雪を拾うようなコースでしたが、ここは、ぜひ、厳冬期に来たい山である。きっとパウダーだらけだろう。

友人宅に戻ったあと、荷造りなどして、明日は早いので、早めに寝ようと思っていたが、つい、友人と話し込んでしまい寝たのは午後11時。明日がかなり辛くなった。



## 2009. 5. 9(土)~10(日): 図2

記録: Narvik 友人宅/曇 350-1km-400 レンカー-社駐車場・Narvik バスターミナル 440=550 Evenes/曇 645\*\*820 Oslo/晴 925\*\*1030 Copenhagen/晴 1545\*\*925 成田空港 1000=1020 駐車場 1130-1230 自宅/晴

というわけで今日はノルウェー国内線のフライトスケジュールの関係で早朝3時起き。これは相当辛いです。ちょっと次回はあり得ないスケジュールですね。ご他間に漏れずスカンジナビア航空も経営が苦しく、国内ローカル線は減便をすすめており、3年前は、朝9時前の便があったので、Narvik 友人宅を7時すぎ出発で良かった。今回は早朝6:45の便の次は11:00、これでは、コペンハーゲンからの成田行に乗れない。結局、超早朝出発にもかかわらず、コペンハーゲンで5時間も時間が空くという、ちょっと無駄の多い帰国フライトとなった。

レンタカーの返却は車の鍵をレンタカー-社オフィスの郵便受に入れておくキードロップ式。これは結構便利で返却日がレンタカー-会オフィスの営業日、営業時間にしぼられないで済む。日本のレンタカー-社もこれは採用してほしいシステムですね。

帰りのコペンハーゲンから成田行きの機内でも、はるかの行動力は、いかに発揮され、参ってしまった。せっかく、ベビーベッドが確保できる席に座ったのに、なかなか寝ようとしない。結局、はるかのビジネスクラスおじさま、おばさま必殺笑い笑顔攻撃をさんざん繰り返し、アテンダントの方に「とっても元気で、良いお子様ですね・・・! ?」をさんざん云われ、コペンハーゲンを出てから5時間、シベリア上空でやっとベッドに入ってくれた。まあ、将来、頼もしいのかもしれないが・・・。

成田空港到着、で、駐車場について、エンジンをかけようとしたら、まったくかからない。結局、JAF を呼んで、見てもらったら、荷持室のランプがついていたようで完全バッテリー上がり。まあ、大事に至らず、無事、帰宅いたしました。

以上